

## 第05回の基本課題

### 試験の実施方法

kiso2 コマンドで「試験」表示されたファイルは、試験として実施されます。「試験」として出題されたファイルもkiso2 コマンドを用いて提出しますが、これらのファイルは試験実施中のみ提出することができます。

試験の実施方法は、以下の通りです。

1. 端末(ターミナル)上から、kiso2 コマンドに `-start-exam` オプションを付けて実行 (`kiso2 -start-exam`) することで試験が開始されます。表示フォントの関係で見にくいかもしれませんが、kiso2 の後にスペースを開けて `-start-exam` (先頭のハイフンは2つ「マイナス・マイナス」`start`「マイナス」`exam`) です。
2. 試験が開始されると、試験開始のメッセージと共にウェブブラウザで試験用Webページが自動的に表示されます。
3. 試験の実施中は、端末(ターミナル)上で経過時間と残り時間が不定期に更新され、kiso2 コマンドで「試験」表示されたファイルが提出できます。
4. kiso2 コマンドで「試験」ファイルを提出する場合は、kiso2 `-start-exam` で試験を開始した端末(ターミナル)とは別の端末(ターミナル)をもう一つ起動し、その端末でkiso2 コマンドによるファイルの提出を行ってください。
5. 試験実施中は、不定期にデスクトップ画面のスクリーンショットが取得されます。
6. 試験の残り時間が100秒を切ると1秒毎のカウントダウンが表示され、残り時間が0になると `kiso2 -start-exam` コマンドと共に試験が終了します。
7. `kiso2 -start-exam` コマンドが強制終了されると、そのままでは再度 `kiso2 -start-exam` を実行できなくなります。操作を誤って強制終了してしまった場合は、速やかに試験監督に申し出て下さい。再度 `kiso2 -start-exam` コマンドが実行できるようにします。ただし、再起動された `kiso2 -start-exam` コマンドは、再起動される度に残り試験時間が10分ずつ減るので注意して下さい。

以下の ex05-1.c は「試験」の練習用課題として出題されています。「試験の実施方法」をよく読んで、試験に参加できるようにしておいてください。現在は、1回の試験時間を5分とし、何度でも試験に参加できるように設定されていますので、繰り返し試験への参加を練習しておいてください。

### 演習課題 ex05-1.c

次のプログラムは、入力される整数値が0より大きく、かつ、入力される回数が10回未満の間それら値を積算し、0以下の値が入力されると積算値を `printf()` で出力し、整数値を入力した回数を `return` 文で返すプログラムである。このプログラムと同じ動作をし、`do`文の代わりに `for` 文を用いて書かれたプログラム **ex05-1.c** を作成し、kiso2 コマンドを用いて提出しなさい。

```
#include <stdio.h>

int main() {
    int a;
    int cnt = 0;
    int sum = 0;

    do {
```

```
scanf("%d", &a);
sum += a;
cnt++;
} while ( a > 0 && cnt < 10);

printf("sum = %d\n", sum);
return cnt;
}
```

実行例 :

```
t180900@s01cd0542-160:~/kiso2-2018/ex05$ ./ex05-1
1
2
3
4
5
0
sum = 15
t180900@s01cd0542-160:~/kiso2-2018/ex05$ ./ex05-1
1
2
3
4
5
-1
sum = 14
```

このプログラムでは、最後に入力された 0 以下の値も加算されます。余裕のある人は、最後に入力される 0 以下の値は加算されないようにプログラムを変更して下さい。

[第05回演習課題へ](#)

From:

<https://www-slab.math.ryukoku.ac.jp/> - **www-slab.math**

Permanent link:

<https://www-slab.math.ryukoku.ac.jp/lecture/kiso2/base05>



Last update: **2018/10/24 21:19**